

運轉中

伊地知克介

登場人物 男7人、女8人

この劇は8話、16エピソードからなる。自動車の放浪男」2エピソード（発掘調査員」4エピソード）「デイボーサーズ 離婚した男たち」4エピソード）「二つ違いなのね」2エピソード）「怒れるタクシー運転手」1エピソード）「スペインへようこそ」1エピソード）「スタート・ソング」1エピソード）「みんなで車を動かす」1エピソード）

- ① 自動車の放浪男1
- ② 発掘調査員1
- ③ デイボーサーズ1
- ④ 二つ違いなのね1
- ⑤ 怒れるタクシー運転手
- ⑥ デイボーサーズ2
- ⑦ 自動車の放浪男2
- ⑧ 発掘調査員2
- ⑨ スペインへようこそ
- ⑩ 発掘調査員3
- ⑪ デイボーサーズ3
- ⑫ スタート・ソング
- ⑬ デイボーサーズ4
- ⑭ 二つ違いなのね2
- ⑮ 発掘調査員4
- ⑯ みんなで車を動かす

【登場人物】

自動車の放浪男	自動車	放浪男	4	4
発掘調査員	谷山	発掘調査員	2	5
少年	少女	幽霊	1	8
デイボーサーズ	伊丹	産婦人科医	4	0
	成田	産婦人科医	4	0
	羽田	産婦人科医	4	0
二つ違いなのね	織絵	義理の母	2	4
	すみれ	義理の娘	2	2
怒れるタクシー運転手	運転手	タクシー運転手	3	3
スペインへようこそ	女囚1	女囚	2	5
	女囚2	女囚	2	7
	女囚3	女囚	2	4
	女囚4	女囚	2	2
スタート・ソング	白田	会社員	4	4
	ホア	カーペット輸入業者	4	4

幕が開く。

舞台の中央に「車」のセット。後部座席がやや高く、下り坂を降りている最中のように見える。これは3人以上乗る場面があるため、後部座席の人も顔が見えるように、という意味。「車」はハンドルがあつて車であることがわかればよく、写実的である必要はない。

第1エピソード 自動車の放浪男 プロローグ)

放浪男、下手から登場。「コンドルが飛んでいく」の演奏。車に乗り込み、ハンドルを握る。

放浪男 カーブのない道を長く運転していると、錯覚することがある。これは道を走っているのではなくて、車ごと墜落しているのではないかと。どこまで自分は落ちていくのだろう。ぶつかるべき地面をいつか俺は見るとか。これは、果てしない墜落なのか。俺はここにいる。俺はここにはいない。移動し続ける。惑星のように。空を見上げれば、夕暮れの空に星が生まれ始めている。星たちは光を増し、家々に明かりがともり始める。地球はきょうも、太陽を半周した。子どもたちがお話を聞く時間だ。水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星。子どもたちは惑星たちのように、母インディオの周りを取り巻く。南米の古い伝説が語られ始めるだろう。夜は物語の時間だ。短い間で、今のはひとりのこと。車を下り、車の斜め前に立つ。車を運転しながら、人はいろんなことを話すよね。

登場人物たちが次々に下手から登場し、車に乗り、せりふを交わしては、上手に去っていく。できるだけスピーディーに。場合によっては車周辺が混雑したり、順番待ちになっても良い。

谷山 出会い系サイトで君みたいな人に会えるなんて、驚いたよ。

成田 海の歌を歌え

羽田 なんてやねん

成田 歌えばええねん

伊丹 うるさいぞ、おまえら。

タクシー運転手 お客さん、イラン人？

すみれ 二つ違いなのね？母上と、私。同じ時期に高校行っていたのね。本当なのね。親子なのに、それ、すごくない？

女囚 1 手錠を外してよ。

ホア スタート・ソング」を歌って。

白田 何？

ホア 私がベトナムから来た年に、あなたが教えてくれた。大体の日本人は知っている歌だって。でも本当の名前を教えてくれなかったから、カラオケで探せない。

登場人物たち、わいわいと話しながら、車を通り過ぎたり、車の前を通ったりして下手に消えていく。

放浪男 おびただしい数のテールランプが環状道路を走っていく。その風景が、おれの頭から離れない。あの道路から、ずいぶん遠くまで走ってきたのに、なぜなんだろう。まるで小惑星のように、あの車たちは走り続ける。おれたちはどこに行けばいいんだろう。走っていく道は、どこに行き着くんだろう。

（溶暗）

## 第2エピソード 発掘調査員 1

谷山 若い男）と少女の2人、車から降りる。海辺、という設定。少し上手に歩き、腰を下ろす、少女は赤いハンカチを取り出し、座るときに敷く。

谷山 君みたいなきれいな、まじめそうな人と会えるなんて思ってもみなかったんだ。

少女 そうなの。

谷山 女の子もそうだろうけど、男も不安なんだよ。どんな女の子がアクセスしてきているのか、わからないからね。怖い目に遭うんじゃないか、ってけっこうそう思ったりするもんだよ。

少女 わたし、怖くないよ。

谷山 うん、それは一目見てわかった。でも未成年だよね。

少女 えっ。

谷山 20歳になっていないよね。

少女 そういえば、そうかな。

谷山 じゃあ、変なことはやめようね。

少女 変なことって何。

谷山 いや、まあ。きょうはドライブと、話だけしよう。

少女 うん、それでいい。

谷山 初めて会ったような気がしないのはどうしてかな。

少女 えっ。

谷山 なにか、仕事で会ったような気がするんだけど、お姉さんとか、お母さんとか、市内で働いている？

少女 いいえ。

谷山 そうか。でもなんだか、どこかで会ったような、不思議な感じがする。

少女 私も。

谷山 不思議だね。働いてるの。それともまだ学校に行ってる？

少女 説明が難しいな。

谷山 わかった。話したくないんなら、いいよ。知らなくても、デートはできるしね。ちょっと見て ハンカチから花を出す手品を見せる)

少女 えーっ、すごい 大喜びする)。魔法みたい。

谷山 ずいぶんな喜びように戸惑いながら) そんなたいしたことないんだ。仕事の合間に、ときどき練習しているんだけど。

少女 お仕事は？

谷山 えっ。

少女 お仕事は、楽しいの？

谷山 そうだな。楽しい。ていうか、今、すごいことになっていてね。

少女 どんなことなの。

谷山 おれ、埋蔵文化財の、発掘調査員なのね。あの山の向こう側に古墳があるの、知ってる？

少女 古墳？

谷山 社会で習わなかった？古代人の作った、土を盛り上げたお墓。

少女 ああ。作ったときは、古墳って名前ではなかったよね。

谷山 面白いことを言うね。あれを今、調査しているんだ。

少女 タテとヨコに溝を入れているよね。

谷山 見たことある？そうだよ。前を通る道からも見えるよね。

少女 あれをこれからどうするの？

谷山 あそこに、文化センターができるんだよ。大きな建物。だから平らにしなくてはいけない。その前に調査して、どんな古墳だったか記録に残さなくてはいけない。それがおれの仕事なんだ。

少女 壊してしまうの。

谷山 その予定。残念だけどね。うちの市では数少ない古墳だからね。でもね。希望があるんだ。

少女 希望？

谷山 今、古墳の中に絵が描かれているように見えるところがあってさ。はっきりしないけど、たぶん女の人の絵なんだ。壁画古墳となれば、相当珍しいから、保存しようって話になるかもしれないよね。センターを設計変更してさ。

少女 あなたは、その方がいいと思ってるのね。

谷山 そう思ってる。

少女 あなた、すごくいい人ね。

谷山 え？

少女 大好き。

谷山 おれ、なんか、夢とか見てるのかな。

溶暗。

### 第3エピソード デイボーザーズ1

成田、羽田、伊丹の中年男3人が車に乗っている。伊丹がハンドルを握る。

成田 ランディ・バーズが阪神に来ることになった時やな。

羽田 なんやねん、急に野球の話かいな。

成田 まあ聞け 明らかに酔っている。このエピソードは2人の酔っ払いと1人の運転者の会話からなる。スポーツ新聞の見出しがどないやったか、覚えてるか。

羽田 そんな前のこと、おまえ覚えてるんか。

成田 バスが来た」やで。バス」。最初は「バス」やなかったんや。バス」やってん。バス停でドン、って止まるあのバスみたいやろ。危険物は持ち込まないようにご注意下さい、って言うやん。危険物持ってバスに乗るやつなんか、おらんやんな。いや、かりにおったとしてもや。

羽田 それで、何が言いたい。

成田 つまりや。おれが言いたいのは、大きなドラマの始まりに気づくのは、簡単やない、っていうことや。85年のあの感動の日本シリーズ制覇につながる大きなドラマの幕開けに、誰も気づかなかったんや。バスが来た。バスみたいな名前のやつが来た、それだけや。大阪中みんなやで。

羽田 だからなんやねん。

成田 離婚へといたる、その階段の一步目に、おまえが気づかなかったのは当たり前や、いうことや。

羽田 おれの話かい。

成田 一歩目に気づかんと、結局、二歩目も気づかんのよ。四歩目も、七歩目も、十二歩目もやな。結局、ゴールテープ切るまで気づかへんねん。

羽田 ゴールインかいな。

成田 結婚はゴールイン、離婚はなんて言うねん。ホームインか。

羽田 お前はどうかやねん。何歩目に気づいたんや。

成田 気づく？。ホームインまで、気づかんと、走りきったに決まっとるやろうが。ランニングホームランや。みんなそうやねん。離婚への階段の一歩目に気づくやつなんか、おらんねん。気がついたら、あと一歩でホームイン、ランニングホームランやねん。もう、とめられへん。そうやろ、おまえも 伊丹に) 気づかなかったんやろ。ホームイン直前で、気づいたんやろ。あ、ここまで来てしもうたんか。ああ、もう引き返されへんて。

羽田 どうやねん。

伊丹 おまえらがアホであることには気づいた。

成田 間、笑い出し) 相変わらずやな。こいつ。

照明が青く変わる

成田 なんや、これ。

羽田 気持ち悪い色のトンネルやな。

伊丹 前に通った時はこんな色の光やなかったけどな。

照明が元に戻る

成田 おい、海の歌を歌え。

羽田 なんやねん、それ。

成田 海の歌や。海に向かってるんやから。

伊丹 運転中。

成田 なんて。

伊丹 おまえらは酔っ払い。おれは酒を飲んでない。運転中や。

成田 運転中やと、何にもわからへんのか。海の歌も歌えへんのか。(チャコの海岸物語「をひどい節回しで歌いだす、羽田も、唱和する」)

溶暗。チャコの海岸物語」がかかる。

第4エピソード 二つ違いなのね1

織絵とすみれ 2人とも若い女性)が車に乗っている。すみれがハンドルを握っている。

すみれ 二つ違いって事は、高校に同じ時期に行ってたのね。カラオケでは何を歌う？

織絵 愛を込めて花束を」とか。

すみれ スーパーフライ」歌う人が母親なんて。

織絵 さくらんぼ」とかも好き。

すみれ 大塚愛じゃない。私の友達でも歌う子いるよ、

織絵 二つ違いって、そんな年の差じゃないからね。

すみれ 母上、若い。

織絵 その母上っての、やめてよ。同じ世代なんだから。

すみれ 母上しか残ってないの。

織絵 残ってないって?。

すみれ 親父は5人と結婚したのね。最初の母はママって呼んでたわ。2人目は母さん、3人目はママさんって呼んでたの。スナックみたいやね。4人目はお母さん。5人目が、母上、つまり、あなた。

織絵 少しずつ呼び変えたわけね。

すみれ 区別がつかないから。

織絵 ははは。

すみれ 母上、ひとつ聞いていい？

織絵 なあに。

すみれ なんで20歳も年上の男と結婚したの？しかも、これまでに浮気が原因の離婚が4回。

織絵 そうよね。変よね。

すみれ そうよね。変よねじゃないよ、普通はやらないわよ。

織絵 やっちゃったよなあ。

すみれ やっちゃったよなあって。結婚よ。

織絵 そうね。おかしいね

すみれ しかも、すぐ死ぬし。

織絵 本当にすぐ死んだなあ。

すみれ すぐ死んだなあ、て、カブトムシみたいに言わないで。夫が結婚して1年もたたずに死ぬなんて。私なら耐えられない。

織絵 まあ本人も死にたくて死んだわけじゃないしねえ。

すみれ そりゃそうだけど。

織絵 どっちにしてもあの人の方が30歳くらい年上だから、先に死ぬのはあの人

なのね。だから、いずれはこの日が来るって、思ってたんだけどね。それが、早く来すぎたのよね。

照明が急に青に変わる。2人、驚く。

織絵 なに、このトンネル。

すみれ 気持ち悪い色。

織絵 前、来たときはこんな色じゃなかったけどね。

トンネルを抜けたらしく、照明が元に戻る。

織絵 少しの間、写真が少ないの。

すみれ は？

織絵 写真が少ないのね。あたしたち。結婚して1年もたないで終わりだからさ、2人で撮った写真が本当になくて。

すみれ 結婚式で撮ったのは？

織絵 結婚写真はあるけどさ。そういうの、コスプレじゃない。

すみれ コスプレ？

織絵 そういう非日常の写真じゃなくて、普通の夫婦だったら、カジュアルウェアでさ。セーターとかポロシャツとか、ジーンズ着てね、ちょっとした公園とか、ハイキングに行った先の山とか神社とかで、2人で撮ったのがあるのが普通あるじゃない。遺品を整理しながらそういうのを見て、懐かしいなあ、とか。

そういうのがないのね。あるのは結婚式と、2人で昆虫館行ったときの写真と。

すみれ 昆虫館だったら、カジュアルウェアでしょ。

織絵 それがさ、昆虫のかっこさせてくれるコスプレやってて。

すみれ それはコスプレじゃないでしょ。子ども向けのサービスでしょう。

織絵 子ども向けなんだけど、私小柄だから着られるのね。せっかくの思い出の写

真で、私、カマキリのかっこしてるのよ。一っやっつて。

すみれ 変なの。

織絵 それが数少ない2人の写真になるなんて、思わないでしょ。そのときデートしている相手と結婚するなんて思わないし、ましてやその相手が死ぬなんて思わないし、カマキリのかっこしてさ、私うれしそうに笑っててさ。相手はまじめな顔してるんよ。これが。バカみたいな写真でさ。

すみれ これからどうするの。

織絵 笑顔になる。実は計画があるの。それについて協力してもらえないかと思っつて連絡取ったのよ。

すみれ あたしに？あたしが何を協力するの？

織絵 すみれちゃん。100万円持ってない？

すみれ 思わずハンドルを切り、車を路肩に止める。サイドブレーキを引く。車から下りて深呼吸をして。100万円？

織絵 そう。

すみれ 何を考えているの。母上。

溶暗

第5エピソード 怒れるタクシー運転手

ハンドルを握っているタクシー運転手 中年男、このエピソードはずっと1人で語り続ける)

お客さん、イラン人？え？イラン人じゃないの。そっか。インド人。ごめんごめん。インドはいい国だよ。白い大きな宮殿があつてさ。え？みんなが宮殿に住んでいるわけじゃない。そりゃそうだろうね。日本だって神社に住んでいるのはごく一部だからさ。間) インドって核兵器持つてるよね。え、持つてるけど、使わない。そうか。その方がいいよね。でもさ、持ってないほうがよくない？そうだよ。持つてたらさ、使いたくなるかもしれないからさ。おれ思うけど、核実験する国は最低だよ。海や山を核兵器で壊すことだからね。魚や虫はそれで死ぬんだよ。核実

験のニュースを聞くと、シンバルを耳元で鳴らされたような気分になるよ。前は核実験のことなんて、気にしなかった。テレビのニュースで見ても、ぼーっと見ているだけだったんだ。別にどうこう思わなかった。でも俺、子どもができてさ、この子どもがミニカーで遊ぶんだよ。ミニカー。このくらいの小さい、金属製のおもちゃの車さ。子どもがマンシヨンの6畳間で、畳の縁に沿ってミニカーを並べて遊んでいるんだよね。部屋の間から端まで、きれいに並べるんだよ。そうまるで、太陽系のようにね。太陽系分かるかな。水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星。そんな風にミニカーを並べるんだ。俺の子どものころと同じように。俺も本当に同じように並べたんだよ。やることがそっくりでさ。それを見てるとき、俺はこいつの人生がどんな形でもいいからさ、まっとうな形で続いてほしいと思うんだよ。核戦争が起きて、不意に、何の悪いこともしてねえのに、死んでしまう。放射能を浴び、全身に斑点が出て、デパートの前とかに倒れる。そんな死に方。そんな目に遭う理由は、俺の子どもにも、あんたの子どもにもないはずだ。俺の人生は、あいつに引き継いでもらうんだ。これまで人類はうまくタクシーを乗り継いできたんだ。核兵器を持つ国が、下手なことをすれば、それが終わっちゃうんだ。そんなわけにいくかよ。だから俺は許せないんだよ。核兵器を持って平気な国がさ。納得いかないんだよな。持ってないと、持ってた方がいいように思うんだけど、実際に持ってみると、そうでもないんだよな。そういうことはよくあるじゃないか。何とかしようぜ。ほっといちゃだめだよ。今みたいな世界をさ。さあ、ついたよ。日本を楽しんでくれよ。ありがとうございました。1050円です。1万円札からだとお釣りは、ありません。冗談だよ、あるよ。

## 第6エピソード デイボーザーズ2

「と同じ。ハンドルは伊丹が握っている

成田 近鉄のフライアートを覚えてるか？いいバッターやったやろ。

羽田 男だけいうんはええな。女は野球の話ができへん。

成田 そうか。

羽田 昔つきあった女に野球を教えたけど、あかんかった。オグリビーってどんなボール？ってきくんや。

成田 変化球の一種やと思ったんやな。今でも日本のどこかで女が男に聞いてるで、きつと。カブレラってどんなボール？って。

羽田 女はなんで野球の話ができないのか。分かるか。

伊丹 アホやからさ。

成田 そのなんでも アホやからさ「いづのはおまえの悪い癖や。その「言」とに離婚に近づいたんやで。」

羽田 もう女寄ってこおへんぞ。

伊丹 寄ってこなくてけっこうや。

成田 よく言った。そのとおりや。結婚離婚は1回で十分！野球の話もできない、タバコも吸えない、週刊プレイボーイも持って帰れない家なんて、もううんざりや。

羽田 女には、人生の楽しみ方が分からん。

成田 人生の楽しみとはなんだ。

羽田 世界中の男に聞いてみよう。おまえは何を楽しいと思うか。

成田 バスケットボール、そのあとのメシ。

羽田 F1レース、ビリヤード、真夜中のバッティングセンター。

成田 真夜中のボウリング

羽田 ウイスキー、焼酎、ブランデー。ソルティドッグも。

成田 プラモデル、水着モデル。

羽田 ジミー・ヘンドリックス

成田 メタリカ

羽田 アイアンメイデン

成田 バンヘイレン

羽田 伊丹に向かい「おまえの人生の楽しみは？」

伊丹 おれは運転中や

羽田 運転中やと、何にもわからへんのか。人生の楽しみも分からへんのか。

成田 こいつは仕事やる。仕事人間や。

羽田 子どもが大きな泣き声をあげてこの世に生まれ出てくる時、いうんやな。

成田 産声が響き渡る時か。人の人生が無事に始まり、その最初の瞬間にかかわれる時です、そういうんやな。

羽田 医者 of 鑑ですよ。あなたさまはよ。

伊丹 そんなことは言っていない。

羽田 別にまじめ人間であることを責めてるわけやないんやで。

成田 そうや。仕事命はええことや。それも離婚の原因にはなるけどな。

伊丹 産婦人科医がいなくても子どもは生まれる。

成田 間) は、何を言ってるねん。

羽田 そんなに自分を卑下せんでも。

伊丹 卑下なんてしていない。おまえらを批判しているわけでもない。客観的事実を言うてるんや。おれたち産婦人科医がいなくても、子どもは生まれて来るんや。弥生時代の竪穴式住居に産婦人科医なんていなかった。もっとさかのぼれば、石器時代の山の洞窟にもな。だが、子どもは生まれてきたんや。

成田 今は石器時代やない。損害賠償訴訟ってものもあるしな。

羽田 その言葉を言うな。

伊丹 論文集を読んだんや。これが傑作でな。交通機関等における産婦人科医不在の突発的出産の事例について。21世紀の、この現代に、産婦人科医なしで、とんでもない状況で、子どもが生まれた記録や。

羽田 なんでそんなものを。

伊丹 おれの机の上にだれかが置いてたんやな。なんでかしらん。おれへの嫌がらせかもしれない。感動的な事例集なんや。おまえらも読むとええねん。

羽田 たとえば。

伊丹 スペインでは、グラナダ近くの山中で、女性用の囚人護送者が、犯罪を犯した女を大勢載せて運んでいる最中に崖から転落した。運転手や監視役の男性は死亡。女たちも相当数が負傷したが、多くは逃走した。そんな中に妊婦がいて、そいつが転落のショックで産気づき、出産した。スペインでは「グラナダの奇跡」といわれて、結構有名な話らしい。

羽田 すごいな。1人でか。

伊丹 殺人犯を含む3人ほどが手伝ったらしい。産婦人科医なんて当然いなかった。

成田 すごいな。

伊丹 ほかにもある。カナダで飛行機が乱気流に巻き込まれて大揺れになっている最中に産気づいた妊婦がいた。もっとも近い空港までは1時間以上、という状況下で、キャビンアテンダントたちが指揮して、無事女兒の出産に成功した。ぞん

羽田 シャレとしてはつまらんな。

伊丹 産婦人科医はいなかった。

成田 日本の事例はないんか。

伊丹 それがあるんや。ゴールデンウィークの高速道路や。渋滞に巻き込まれたバスの中で、妊婦が産気づいた。救急車を呼ぶんだが、事故があったかなんかでなかなか着かない。そのうちに子どもが出てきてしまった。母子ともかなり危険な状態だったらしいが、仕方がないので、バスの後部座席のあたりに乗客が持っていた楽器を並べて、その上に妊婦を寝かせ、出産した。これは偶然退職した看護師グループが乗り合わせていたので、数人のチームプレーで無事出産に成功したらしいわ。産婦人科医は、ここにもいなかった。

成田 楽器って何の楽器や。

伊丹 それについては書いていない。楽器というだけや。

羽田 楽器の上で生まれたガキか。

伊丹 シャレとしてはつまらんな。

成田 海に着いたぞ。

羽田 おー。

伊丹 リクエストどおり、真夜中の海だ。ほぼ2時間でついた（さ人、車を降りる）。

成田 どう思う？

伊丹 なにを。

成田 分娩台やなくて、楽器の上で生まれたガキの場合、どんな人生になるんやろうな。

伊丹 ほかのガキと同じやろ。

羽田 雑誌で読んだんやけど、アフリカのなんとかいう種族ではさ。シャーマンが必要になることがあるんやて。

成田 シャーマン？。

羽田 まじないをする、いわゆる呪術師いうやつやな。そいつが必要になると、妊婦をやぎの皮で作った太鼓の上に、板を渡して寝かせて太鼓を鳴らしながら、子どもを生むんやて。そうすると、子どもがシャーマンになるらしい。

成田 ほんまかいな。

羽田 その子どもには死者の声が聞こえたり、死者と話せたりするらしいわ。

成田 おお、気味悪。

羽田 でも、その死者の声が、その子や、部族がどうい道を進めばいいか、教えてくれるらしいねん。

成田 そんなあほな。過去の死者が、なんで生きている人間の未来を指示できるねん。

羽田 なにしるシャーマンの話やからな。そう言われてもな。

伊丹 どういう道を進めばいいか、教えてくれる声か。

成田 カーナビやな。

伊丹 そんなが、あったらな。

3人は黙り込む。

溶暗。

第7エピソード 自動車の放浪男

放浪男 車から下りて、一方的に話す（道に迷ってる。でも、道に迷っているかどうかなんて、だれに分かるだろう。みんなが目的地を知っているのか。コンドルが飛んでいる。彼は、目的地を知っているように見える。おれは、おれの目的地を知らない。何があるのか。なにもない岩山か。砂漠か。祭りにはコンドルを牛の背中に結び付けて、闘牛をするアンデスの村か。道に迷っている。でも、おれ以外の人は道に迷っていないのか。あんたは、どうか。

溶暗

第8エピソード 発掘調査員 2

谷山と少女が車から下りる。2人、腰をおろす。少女は赤いハンカチを敷く。

少女 沈んでいるのね。

谷山 楽しそうだね。

少女 せっかくのデートなもの。喜びにあふれていたいわ。

谷山 うらやましいな。

少女 私について、つまらない？

谷山 そんなことはない。君は不思議な人だね。悩みはないの。

少女 いっぱいあるわ。

谷山 たとえば。

少女 制約が多いことかしら。限界が多いというか。

谷山 何に。

少女 すべてに。

谷山 おもしろいことを言っね。

少女 でも、制約があることを楽しんでるの。

谷山 すごいな。

少女 あなたは。

谷山 制約があることに、悩んでいるよ。というより、固い壁にぶち当たっている。

少女 そういうことは、友達か恋人に相談するのよ。

谷山 いればね。

少女 あら私は？

谷山 子どもじゃないか。

少女 聞くくらいはできるわ。

谷山 役所の不正を内部告発すべきかという、悩みを？

少女 なんだか、よく分からないけど、聞きましょう。

谷山 人に言わないね。

少女 言わない。聞くだけ。約束する。

谷山 古墳を掘る仕事をしているって言ったよね。あの中に絵が描かれていたんだ。

少女 女の人を描いた、絵。

谷山 そうなんだ。古びて、はっきり分らないけど、僕はそう思ったんだ。赤い衣を着て、何かをしている絵だ。貴重な文化財だ。壁画古墳なんてめったにあるものではないんだ。素晴らしい発見だった。でも、うちの町の予算ではそんなものは保存できない。古墳を壊した後を作る予定の文化センターの建設計画にも影響する。そんなものは保存できない、あったことも記録せず、公表もせず、古墳を削り取ってしまった。僕は信用されていない。写真も、記録もすべて没収されてしまった。せっかく珍しい文化財を調査し、世の中に見てもらおうチャンスだったのに。

少女 それは残念だったわね。

谷山 できることは一つだ。この事実を警察とマスコミに連絡して、不正に古墳が削り取られたこと、うちの町長や教育長が貴重な文化財を守らず、法律に触れる行為をしたことを明らかにすることだ。でも、それをするにも証拠がない。それに、僕は仕事を失ってしまう。世間が本気にしてくれたとしても、仕事は失ったままだろう。僕は自分の仕事が好きなのに。

少女 彼女は怒らないんじゃないかな。

谷山 彼女って。

少女 壁に描かれていた彼女よ。

谷山 ああ。なんで。

少女 絵は、絵でしかないもの。彼女を大切に思っていた人が描いたとしても、それは永遠のものではないの。命が永遠ではないように。むしろ、あなたが絵のことで悩んでくれたことが大事よ。1500年も後の時代に生まれたあなたが、悩んでくれた。彼女はきっと、それをすごく、うれしく思っている。

谷山 そうかな。

少女 自信を持って。あなたは、あなたのすべきことをするわ。

谷山 ありがとう。

少女 ところで、モーター行く？

谷山 え？いや、そんな。

少女 さっき行きたいと思わなかった？。

谷山 思った。なんで分かるの。

少女 分かりやすい人だから。

谷山 びっくりするなあ。やめとくよ。君は、未成年。

少女 そう。残念。どんなところか、行ってみたかったのに。

谷山 大人になってからね。

溶暗

第9エピソード スペインへようこそ

助けてえ」という声が聞こえ、照明が入ると女たちが倒れている。全員、女囚の服を着たスペイン人の若い女、という設定。

女囚 1 おい大丈夫か

女囚 2 最低。何が起きたのよ。

女囚 3 護送車が崖から落ちたのよ。

女囚 2 最悪ね。

女囚 1 でもないわよ。あれを見て。

女囚 2 警官たちが死んでいるのに気づく（やつら、死んだの？

女囚 3 悲鳴）

女囚 1 静かにしな。とりあえず、私たち、自由になれたかもね。

女囚 2 最悪でもないわね。

女囚 1 そういうこと。

女囚 3 ここはどこなの。

女囚 2 分からないけど、グラナダから20<sup>キ</sup>は離れていないわね。あそこから国道に上がれそうよ。国道に上がって歩き続ければ、あとはなんとかなるでしょう。

女囚 3 手錠を外さないよね。

女囚 1 鍵はやつらのポケット。たぶんハンドルに顔ぶち当てて倒れているやつが持っている。

女囚 2 ポケットを探るマイム)

女囚 3 よく平気で死体に触れるね。

女囚 2 あったよ。自分と仲間の手錠を外す) さあ、さっさとずらさろう。

女囚 1 そこに倒れているやつは。

女囚 2 死んでいるんだろう。ほっとこう。

女囚 3 冷たいね。

女囚 2 死体に親切にしてやっても仕方ないだろ。

女囚 4 生きているの！

女囚 3 悲鳴)

女囚 1 静かにしな。

女囚 4 動けないの。足を折ったらしい。

女囚 2 それじゃ仕方ないね。助けを待ちな。

女囚 4 動けないだけじゃないの。

女囚 1 どうしたんだよ。

女囚 4 生まれそうなのよ。

女囚 1 何が。

女囚 3 もしかして、妊娠しているの。

女囚 4 出産予定日はまだ先だったんだけど、事故のせいかな。もう生まれそうになってるのよ。

女囚 1 じゃあ、ますます逃げられないじゃないの。

女囚 3 どうするの。

女囚 2 ここで生むしかないでしょう。

女囚 1 ここで。

女囚 4 簡単に言わないでよ。ひとごとだと思って。

女囚 2 ほかにどうしようっていうのよ。いいわ、あたしが手伝う。

女囚 1 なんだって。

女囚 2 あたしは残るから2人で逃げなさい。

女囚 1 さっきはほっとこつって。

女囚 2 死体ならほっとくけど、出産なら話が逆だ。あんたたちも手伝う？

女囚 1 やだね。

女囚 3 手伝ってもいいよ。

女囚 1 なに言い出すんだ。

女囚 3 逃げ切れる保証はないし。

女囚 4 うわあ。

女囚 3 頑張ってる。

女囚 2 女囚 1 に) あんた、何の容疑だ？

女囚 1 強盗未遂さ。

女囚 2 それだけ。

女囚 1 それと恐喝未遂と、窃盗未遂、詐欺未遂も。

女囚 2 何ひとつ、実際にやってないじゃないか。バカだね。それじゃ逃げたら損だよ。逃亡未遂がつくだけだよ。執行猶予とんじまうよ。

女囚 1 分かった。何をすればいい。

女囚 2 お湯がいるね。まきを集めて、火をつけよう。鍋の代わりになるものは？

女囚 3 警官のヘルメットを持ち) これでは？

女囚 2 運転席にライターがある。

女囚 3 探し) あったよ。

女囚 1 何で分かった。

女囚 2 タバコに火をつける音が聞こえたのさ。崖から落ちる前にね。

女囚 4 うあああ。

女囚 2 呼吸法は習わなかったの。痛みが来たらはくのさ。フー。出来る。フー。

女囚 4 フー。 (繰り返す)

女囚 1 まきはこれぐらいでいいかい。水汲んでくるよ。谷川の音が聞こえる。

女囚 4 ねえ、もし知っていたら教えて。

女囚 2 何？

女囚 4 シヤブって赤ちゃんに影響あるの？

女囚 2 覚せい剤？あるに決まってるだろ。バカだね。

女囚 4 妊娠してからはやってない。

女囚 2 当たり前だよ。

女囚 4 シンナーは？

女囚 2 今後一切やめな。

女囚 1 水だよ。

女囚 2 早く火をつけて。

女囚 3 火をつけるが、様子がおかしい)

女囚 1 ドライブに来て、飯盒炊はんしているみたいね。

女囚 3 うあああ。

女囚 2 どうした。

女囚 1 思い出した。こいつに火を見せちゃまずい。

女囚 3 うあああ。

女囚 4 うああああ。

女囚 2 なんだ。

女囚 1 こいつ、赤猫だ。

女囚 2 赤猫。

女囚 1 放火犯だよ。火を見ると興奮するのさ。アタマ、変なんだよ。

女囚 3 あたしは変じゃない。

女囚 4 うあああ。

女囚 2 女囚 4) いいか。聞きな。お前がいかれてて、世の中を燃やし尽くした  
いと、そう思ったたとしても、そうはいかねえんだ。神様は毎日一つ星を作るんだ。  
人が、炎で立ち向かってても、絶対勝てない。勝とうなんて思うほうが無理だ。炎な  
んかで興奮するんじゃない。そんなものでは、なにもできないんだ。落ち着きな。  
これから、人が生まれるんだ。

女囚 3 できないよ。

女囚 4 うあああ。生まれる。

女囚 1 火をつけな。

女囚 2 早くしろ。

女囚 3 火をつける) できた。

女囚 1 できるじゃないか。

女囚 4 生まれる

女囚 2 あたしが押さえている。女囚 1に) あんたが引き出せ。

女囚 1 あたしが。

女囚 2 早く。

女囚 1 引き出そうとする)

女囚 4 生まれる。

女囚 3 頑張って。

女囚 1 出てこない。

女囚 4 うわああ。

女囚 2 どうだ？

女囚 1 うわ。

女囚 2 なんだ。

女囚 1 アタマから出てきた。

女囚 2 それが普通だ。

女囚 1 そうなの？

女囚 4 うわああ。

女囚 3 頑張れ。

女囚 1 うわあ。

女囚 2 今度はなんだ。

女囚 1 ひっこもうとしている。

女囚 2 なんだって。

女囚 4 うわああ。

女囚 3 あかちゃん、ひっこまないで。出てきて。

女囚 1 出て来るんだよ、赤ちゃん。

女囚 3 機嫌を悪くしないで。出てきて。

女囚 1 赤ちゃん、お願いだから、出てきて。

女囚 2 怒鳴る)とっとと出て来いっていうんだ、このくされ外道。いつまでも人の体の中で楽しようとするんじゃないかねえ。いいかげんにしろ。出てきやがれ。てめえが半端なんで、こっちまで迷惑だ。

女囚 4 お願い、怒鳴らないで。

女囚 2 うるさい。こいつに言ってるんだ。いいか。もうおまえはここまで来ちゃったんだ。後戻りできねえんだ。ひどい人生だろうさ、こんな悪党たちに囲まれて生まれたんじゃないさ。

女囚 1 おい。

女囚 2 だけど、仕方ねえんだ。人生が始まるんだ。とっとと始めな。悪党になろうが、闘牛士になろうが、なにしようが勝手だ。だけど、生まれなきゃおまえにはなにもないんだ。びびってんじゃないかねえ。人間さまの世界に、とっとと顔を出しな。

女囚 1 顔が出た。

女囚 2 よし。

女囚 1 黒人だ。

女囚 4 パパがケニア人。

女囚 1 じゃ、まあ当然か。

女囚 2 女囚 3に)産まれたらおまえが受け取れ。へその緒を切って、産湯に入れるんだ。やけどさせるな。

女囚 1 あんた、容疑は何だ。

女囚 2 こんなときに聞くな。

女囚 3 殺したよね。

女囚 1 え。

女囚 3 あんたの顔、国営テレビで見たよ。

女囚 1 本当かよ。

女囚 2 悪い男がいてね。

女囚 4 うわあ。産まれる。

女囚 2 スペインへようこそ！。

女囚 1、3 スペインへ！ようこそ！

溶暗

産声が響き渡る

第10エピソード 発掘調査員 3

谷山と少女が車を降りる。少女は赤いハンカチを敷いて座る。

少女 話さなくてはいけないことがあるの。

谷山 おれも。

少女 どっちが先に話すか、コイントスで決める？

谷山 コイントス、好きだね。

少女 あなたに教えてもらったのよ。すごくいろいろなこと教えてもらったわ。UFOキャッチャーとか、ボウリングとか、キャラメルマキアートとか。

谷山 知らなかったのがびっくりだよ。不思議な人だね。でも、未成年とデートしたことがなかったから、いろいろ考えるのが面白いよ。

少女 アジアンカンフージェネレーションも。

谷山 え。

少女 音楽も。知らなかった曲をいっぱい知ることができた。アシッドブラックチエリーとか。デートって知識が豊富になるわね。

谷山 君は面白い人だね。

少女 あなたから話して。

谷山 先でいいの？

少女 私は後がいいの。

谷山 内部告発することにしたよ。

少女 お墓を壊した話ね。

谷山 知り合いの新聞記者に全部説明して、あとは向こうに任せるよ。証拠がないから、結局、うやむやになるかもしれないけど。

少女 悪者はいつか滅びるわ。

谷山 だといけど。

少女 あなたが正しいことをしようと思っているなら、それはうまくいく。

谷山 予言者みたいだね。

少女 予言するわ。

谷山 証拠がないからね。ひとつ残らず、壊して持ち去られてしまったから。

少女 大丈夫。

谷山 君がいてくれたから、強くなれた気がする。

少女 だとうれしいな。

谷山 君と会うようになってから、なんでもか、実力がついた気がするんだ。人間としてね。何をしているときにも、ティンパニーがどこかで鳴り響いて、自分を支えているような気がするんだ。間）ありがとっ。

少女 ティンパニー。

谷山 楽器だよ。たたいて、元気な音を出すんだ。音楽の授業で使わなかった？。

少女 デートって知識が豊富になるわね。

谷山 最近は使わないのかな。

少女 私の方の話をしている？

谷山 いいよ。

少女 ちょっと残念な話だけど、もう会えなくなるわ。

谷山 座り込む)

少女 どうしたの。

谷山 いや。でも、そう言われる日があつて来るような気がしていた。それがいつ来るか、恐れてもいた。そうだよ。年も違いすぎるし、僕はそんなに面白くないし、君を好きになってもそれ以上先に進めないと思つてた。しかも、もうすぐ仕事を失うかも。僕を好きになつてももうなんて、そんなことはとうてい無理なんだ。

少女 あなたのは好きよ。でも私たちには制約があるのよ。どんなことにもルールがあるの。ボウリングで1度に2つの球を転がしてはいけないのと同じ。好きだけど、もう会えないの。

谷山 また出会い系サイトで別の男に会うの。

少女 あれはね。あなたと会いたかつたの。ほかの人と会つたりしないわ。

谷山 君の言うことはときどき分からない。

少女 元気出して。あなたはハンカチを花に変えられる人でしょう。

谷山 もう出来ないよ。見てくれる人のいない手品なんて 泣き出す)。

少女 大丈夫よ。

谷山 もう 大丈夫」って言ってくれる人は僕にはいない。ティンパニーは鳴り止

んでしまった。もう何もできない。

少女 あなたはできるわ。赤いハンカチをわたす)

谷山 ありがとう 目をふく)

少女 見て、海に月の光が降ってる。1500年前にも、海に月の光は降ってた。その前もその前も。私たち、永遠を見ているのね。

谷山 君の言っていることはときどき分からない。

少女 みんなつながってるの。すべてのものがつながっているの。私もあなたも、その大きなつながりの一つなの。会えなくても、見えない手をつないでいるの。大丈夫。つながっている。

谷山 君は誰なの。

少女 ほほえんで、上手に去る)

谷山 少女がハンカチを置いて行った事に気づき、返そうと追うが見失う。静かにかばんにしまう)

溶暗

第11エピソード デイボーザーズ3

成田と羽田が3人のうち2人が海に入っただざけている。伊丹は車のそばで座っている。

成田 伊丹に) おまえも海に入れ。

羽田 気持ちいいぞ。

伊丹 なにやってるんや。

成田 少年になれ。

伊丹 なれへんて。

羽田 簡単や。

伊丹 おまえらはアホやからな。おれは違つ。

羽田 そういう態度があかんのや。海に向けて叫ぶ。

伊丹 嫌や。

成田 それくらいやれ。付き合い悪いぞ。

伊丹 叫ぶ) おれは大阪万博の年に生まれた」

羽田 叫ぶ) 人類の進歩と調和」

伊丹 叫ぶ) 離婚が何だ」。

成田 その調子や。

羽田 慰謝料とるな」

伊丹 ちるな」

成田 バカヤロー」

3人は気まずくなって砂浜に座り込む。

成田 離婚はきついな。

羽田 ストレスたまるよ。

成田 男って、なんでこうなんやろな。伊丹に) 分かるか。アホやからか。

伊丹 アホやないやつに聞け。

羽田 糸の切れたたこになったような気分やな。自分が何ともつながっていない。

成田 そうだな。それがつらい。

伊丹 慣れるしかない。

成田 慣れるって、なかなか難しい。

伊丹 慣れるしかないんや。そういうものやねん。人間って。何かとつながってると思っているとしても、そうやないねん。おれもそれがわかっていなかった。結局、人間は一人で、何かとつながってはいないんや。家族とは離婚すればつながりはなくなる。職場とは退職すればつながりはなくなる。患者とは退院すればなくなる。つながっていると思うのは、幻想や。おれもわかってなかった。つながってると思ってた。でも違うねん。人生が斜めに傾いて、初めて見えてきた。おれは何ともつながっていない。家族や職場や、周りの人々とつながっていない。歴史とも自然とも、つながっていない。バッティングセンターやボウリング場とももちろんつながっていない。おまえらとも、つながってはいない。

3人、押し黙る。溶暗。

### 第12エピソード スタート・ソング

白田とホアが車を降りる。

ホア 見て。月が出ている。ウサギがもちつき。あなたが教えてくれたから、私もそう見えるようになった。

白田 おれが教えたんだったかな。

ホア 日本人はウサギが好きね。今年はウサギ年なんでしょう。ベトナムには、ウサギ年はない。今年はネコ年。

白田 ネコなのか。

ホア 日本の海は久しぶり。楽しいね。

白田 そうだね。

ホア なんで友達がいないのに、同窓会に出る？

白田 学生的时候は、いなかったけど。

ホア 今もない。20年前と同じ。

白田 そんなことはないよ。きょうもたくさんの人と話した。

ホア 話してるだけ。あなたは日本人だけど、日本人の友達がいなかった。私たち留学生としか話さなかった。今は日本人と話してる。でも友達になってない。私だけ。

白田 たくさんの人と話せば、ビジネスチャンスがあるかも。

ホア 同窓会に出るような人と話しても、ビジネスチャンスはない。短い間で、私に会える。

白田 そうだね。ドライブもできるし。

ホア 久しぶりに、あれ、やるか。

白田 あれって。

ホア あれは、日本語で何て言ったかな。

白田 だから、あれってなんだ。

ホア アームレスリング。

白田 腕相撲。

ホア 腕相撲、か。左にしてやる。

白田 よし。腕まくりをする(

2人、車のボンネットの上で腕相撲をするが、ホアがめっぽう強い。

白田 右だ。

ホア なおさら、あなたは、勝てない。

白田は簡単に負ける。

ホア 日本人男性は、弱いな。

白田 おれが弱いただけだよ。

ホア 罰ゲームだ。

白田 罰ゲームまであるのか。

ホア スタート・ソング」を歌え。

白田 間) さっきも言ってたな。ごめん。本当に覚えがないんだ。

ホア ビギニング・ソング」だったかもしれない。ゼロ・ソング」だったかも。覚えてない？

白田 思い出せないなあ。

2人、並んで浜辺に腰を下ろす。

白田 同窓会に出るの、もうやめようかと思ってる。

ホア どうして。

白田 話題についていけないよ。大学生の時でもみんなに溶け込めなかったのに、同窓会では余計無理だ。毎年つらくなる。代わり映えのしない子どもや職場の話題。現状維持の好きなやつら。あいつらは昔からそうだ。現状維持が大好きなんだ。それを聞くのがつらい。

ホア 現状維持って、去年と今年の状態が、同じってことだったかな。

白田 まあ、そうだ。

ホア それは私と共通の問題だね。みんなと違うんだ。現状維持では満足できない。

白田 20年前は、現状が、最低だったからな。

ホア お金がなくてね。あなたは、同級生に古着を売ってた。

白田 君は栄養失調で銭湯で倒れた。銭湯で死にかけたベトナム人女性は君くらいだよ。

ホア 今では、楽しい思いだね。

白田 楽しくないよ。今でも思い出すと、口の中が苦くなる。

ホア 喫茶店で粉チーズ全部食べた。

白田 3日間、何も食ってなかったんだ。粉チーズでもご馳走だった。

ホア あなた、何も注文せずに粉チーズ全部食べたのよ。泥棒だよ。

白田 君こそ、空腹がまぎれるって、煙草を二つに切って吸ってた。

ホア 貧乏は乗り越えた。今は、いい煙草を切らずに吸える。

白田 そうだね。

ホア それでも現状に満足していない。

白田 そうだね。

ホア あなたが前に立って切り開いてくれた。大きな商社に入って、大きな仕事をして、成功していった。それを見て、私もできると思った。あなたが「できる」って教えてくれた。だから自信を持って世の中に出て行くことができた。

白田 俺にとっても、君はそういう存在だよ。俺は組織の一員だけど、君は一人でベンチャービジネスに挑んで、成功していった。俺は組織の中で戦っているけど、君は一人で輸入カーペットの渦の中で戦っている。どんなに励まされたか。

ホア なんて、私と結婚しなかった。

白田 君が断ったんじゃないか。しかもイラン人と、とっとと結婚した。

ホア 夫はインド人。

白田 そうだった？

ホア 流れ星。

白田 何を願った。

ホア え？

白田 昔、いつも何かを願ってた。流れ星のたびに。

ホア 短い間（今月末、もちこたえられますようになって。

白田 会社が。

ホア そう。

白田 やばいのか。

ホア やばいよ。ものすごく。不景気で、輸入カーペットを買う人が減ってしまっ  
てね。けっこう悲惨なのよ。

白田 そうなのか。

ホア それだけじゃないの。夫が売り上げをごまかしてね。システム手帳を見た  
ら、経費に使ったはずの金を別のことに使っていることが分かったの。

白田 別のこと。

ホア システム手帳に、私の部下と一緒に写した写真が張ってあった。ほら、シー  
ルを印刷できる大きな箱型の機械をなんていう？

白田 プリクラ？

ホア その中で、顔と顔を押し付けあった。

白田 浮気かよ。

ホア 問題は夫が女にうつつを抜かすだけじゃなく、仕事をちゃんとしていないこ  
とね。営業をかけるはずのカナダの取引先に行っていないのよ。飛行機の中で女性が  
緊急出産をして、どこか別の国の空港で緊急着陸したって連絡が来たわ。そんなの  
本当のわけがない。日本人はうその後、何か数字をつけて、ひどいものであるこ  
とを強調することがあるよね。

白田 うそっぱち？

ホア それ。うそっぽち。その結果、品物が宙に浮いちゃったの。どうしようもないのよ。会社でカーペット買う予定ない？

白田 え？

ホア こんなこと言うつもりはなかったの。ごめんなさい。もうかってると思って突っ走ってた。一時は本当にうまくいった。だから仕事を大きくすることに夢中で、回りを信頼しきって、頼りないと思ってた夫にも大きな仕事を任せてた。自分の足元が見えてなかった。カーペット業者としては失格よね。

白田 ニュースを教えようか。

ホア 何？

白田 うちの会社はもうすぐ経営破たんする。

ホア うそ。

白田 本当。うちの業界ではけっこう前からうわさにはのぼってたけど、本当になるとはね。たぶん今週のうちには発表されて、整理が始まるだろう。おれは、仕事を失う。

ホア どうして。

白田 バブルの牙に噛み砕かれたのさ。よくある話だ。

ホア あなたはどうなるの。

白田 君こそどうなる。

ホア 破産した経営者になるわ。それは、避けられそうにない。

白田 おれは失業者に。

ホア 間(間)うまくいかないわね。

白田 なんで、金だったんだらうな。なんで社会的成功だったんだらう。人生が斜めに傾いて、ときどき思うんだよ。目指すものが、ほかのものでも良かったはずだ。

社会正義でもいいだろう。芸術作品を作ることでもいいだろう。温かい家庭や、充実した趣味。サッカーチームを応援してJ2に落ちたとかまた上がったとか大騒ぎするのも楽しい人生だよ。なのに、俺たちは必死になって、金だとか、社会的成功だとか。なぜなんだろう。

ホア あたしたちは、持ってなかったから。何も持ってなかったのよ。

白田 そうだな。持っていないと、人が持っているものが、美しく見えるんだよね。実際には、そうでもないけど。

ホア 日本の人形劇、あれはなんて言った。口がこんな風に動く。ぱくぱくする。

白田 文楽？

ホア 昔、留学生会館で公演を見た。男が金で行き詰って、親しい女と死ぬ。

白田 曽根崎心中」かな。

ホア それだ。男女が一緒に死ぬ。日本人男性は弱い上に、自殺する時まで女を道連れにする。

白田 みんながそうじゃないよ。

ホア あなたがもしそれをしたと考えているなら、私は道連れになってやらないでもない。

白田 その日本語、おかしいよ。一緒に死んでもいいよ、という意味になってしまふよ。

ホア そういう意味で言った。

白田 間、同意しようかと真剣に考えるが、やがて首を振る。バカ言うな。おれたちはこれからだ。

ホア そう思っ？。

白田 何も持っていなかったんだ。ここからまだ闘って、取り戻していけばいいんだ。

ホア できるかな。

白田 間) できるよ。大丈夫だ。うそじゃない。本物と偽者があるんだ。こういう時に区別ができるんだよ。「緒じゃない。本物は輝きを失わない。シールははがせるけど、星座は消せない。」

ホア 私たちは本物かな。

白田 本物だよ。やり直せる。

ホア 間) また、始めるか。

白田 もう1回、始められるよ。

ホア ほら、スタート・ソングを歌え。

白田 考えて) 思い出せない。残念だな。

ホア 思い出して。20年前、公園のベンチだった。やせた若者と、ベトナムから留学してきたばかりのかわいい女の子が並んで座っている。

白田 自分で言うか。

ホア 二人の前には池が広がる。風が強い日で、三角波が立つ。2人は一緒に交通量調査のアルバイトをした帰りだ。きょうみたいに星がいっぱいだった。もらった日当で、若者はコーヒー牛乳を買って、かわいい女の子におごってくれる。2人がお互いを好きになって悩むのは、ずっと後の話だ。このときは、まだ気の合う、生活環境の似た、バイト仲間に過ぎない。両手にコーヒー牛乳を持った若者は歌を口ずさんでいる。女の子はなんとという歌か、尋ねる。若者は「スタート・ソングだ」と答える。あるいは「ピギニング・ソング」と言ったかもしれない。

白田 覚えていないな。

ホア 私は不安と希望でいっぱいだった。知らない国で、ここから、私の人生のいろいろなことがスタートするんだ、この人はそれを支えてくれる人かもしれない。この人は、日本語で何かのスタートを歌っている。私の心は震えていた。あの池はまだ、私の心の中で、波を立てている。あなたは忘れても、私は忘れない。

白田 歌ってみて。

ホア　むばらく考えて　やつらの足音のバラード」を歌い出す）なんにもない、なんにもない、まったくなんにもない。生まれた生まれた何が生まれた。星が　一つ、暗い宇宙に生まれた。

白田　思い出し、唱和する）星には夜があり、やがて朝が訪れた。

2人　なんにもない、なんにもない、まったくなんにもない。なんにもない大地にただ風が吹いてた。吹いてた。吹いてた。

溶暗。　やつらの足音のバラード」の2番が流れる。

### 第13エピソード　ディボーザーズ4

3人は車と離れたところで座り込み、元気をなくしている。

成田　結局、なんなんやろうな。おれたち。

羽田　離婚した男たちってことや。結局。離婚すると、男は一時的に自分の立ち位置を見失うんや。居場所がなくなったような気分になるねんな。雑誌で読んだけど、そういう状態は平均して7カ月続くってさ。

成田　7カ月か。長いな。

伊丹　平均的な妊娠期間よりは短い。

成田　雑誌には、そういう状態をどう抜け出すかは書いてなかったんか。

羽田　統計的には、趣味に打ち込んで前向きな気持ちを取り戻した、ってのが多かったかな。仕事に打ち込むとか。

成田　趣味か。

伊丹　仕事か。

羽田　生きがいを見出すのがええねん。

成田　そう簡単に言っな。

羽田　なんだってええねん。バスケットボールでも、ビリヤードでも、キャバクラ

入りびたりでも。何か自分が存在している意味があるように思えるもの。それがあればええねん。サッカーチームのサポーターになって1部に上がったとか2部に落ちたとか、ギャーギャー言うのも楽しいかもしれない。自分は生きているんや、ここで生きているんや、それに意味があるんやって、思えるようなことがな、どこかにあればな。

成田 この間空港からタクシーに乗ったんや。

羽田 関空？伊丹？

成田 関空。面白い運転手でき。彼の生きがいは核兵器なんや。

羽田 家で作ってんのか。

成田 いや逆。核兵器廃絶、世界平和なんや。

伊丹 それはまた、でかいな。

成田 空港で待機しているから、よく外国人を乗せるんやと。それで、核保有国から来た人間を乗せると、話しかけて、核兵器を使ったら世界は滅びるから、核兵器を使うな、作ったらだめだ、持ってちゃだめだ。そういうことを話すんやて。もちろんタクシーに乗った人間が核兵器にかかわる仕事をしているとは限らないけど、核兵器はだめだと思ってくれる人間が1人でも増えたら、核兵器による悲劇を少しでも遠ざけることができるんじゃないか、そう思っているんやて。たとえ小さい力でも、そうした努力ができれば、自分は人間として生まれてきて、この世界に生まれてきて、タクシーの運転手になったことがすべて意味を持つんやないか、とそう思うんやて。そういう話をしてくれたんや。おれをイラン人だと思ったんやて。

伊丹 うらやましいな。

羽田 そう。うらやましい。

成田 産婦人科医には無理か、

羽田 雑誌で読んだんや。

伊丹 よく雑誌読むな。

羽田 ほっとけ。時間あるんや。アメリカが初めて開発した原爆は オッペンハイ

マーの赤ちゃん」と呼ばれていた。エドワード・テラー、後の「水爆の父」は核実験の成功を電報で知らせた。Eー・イズ・ア・ボーイ」。

成田 男の子でした、か。

羽田 産婦人科医の気分やったんや。核兵器を生み出したんやな。恐怖の時代もな。

成田 羽田に)とところで、おまえの兄貴は見つかったのか。

羽田 まだや。

伊丹 行方不明のままか。

羽田 いや、まったく行方不明というわけでもないねん。ときどき、意味の分からない手紙を送ってくるし。

成田 消印を見ればどこにいるか分かるんやないのか。

羽田 先月来たのはアルゼンチンからやった。

伊丹 そりやまた遠いな。

成田 兄貴は内科の開業医やったっけ。

羽田 いやそれは一番上の兄貴。二番目の兄貴は医者やない。医者にならずに、普通の会社に勤めたんや。

成田 サラリーマンか。

羽田 15年勤めて、軌道に乗ってるように見えた。おれはうらやましく思ってた時期もある。それが、突然。行方不明や。

成田 何かきっかけがあったのか。

羽田 分からんのか。ただ突然消えて、南米に渡った。南米で車を買って、どこかへ向かっているんや。何を考えているのか、まるで分からへんねん。送ってきた手紙にはコンドルがどうか、アルゼンチンの逃げ水がどうか書いてあるだけやねん。車を地平線に向けて運転していると、墜落している感じがするとか、そんなことばかりや。

伊丹 いかれてるのんかな。

羽田 わからへん。どこに向かっているのか分かれれば、そこで待っていて、連れもどすんやけど、どこに向かっているのか。まるで分からのや。

成田 兄貴の目的は何かな。

羽田 人生をリセットしたいのかもな。

伊丹 リセット

羽田 自分の生まれた場所のまったく反対側の場所を目指しているんじゃないかって、思うんや。

伊丹 自分の生まれた場所の、反対側。

成田 ブラジルやな。

羽田 そうなんや。自分が生まれた場所、兄貴の場合は大阪やけど、その逆側の場所の緯度経度を調べた節があるねん。でもそんなところに行って何がしたいのか、おれにも正直わからへん。そやけど、これまで生きてきたことが、なんか違ってたかな、と思うとするやん。その時に、何をするかやねんな。兄貴は、地球の裏側に行って、自分の生まれた場所のちょうど反対側、ブラジルの草原に立って、うわーって大声を出して、そこから再出発したいのと違うのかな。そこから生き直すことができると思ってるんと違うかな。コンドルが飛んでるんやて。その下でハンドルを握り続けて、道路に逃げ水が浮かんで消えて、兄貴の手紙は意味わからへんけど、もう1回生まれようとしてるんやと思う。それは、分かるねん。でもそれにおれは何もしてやれない。

伊丹 産婦人科医は1回目の誕生を助けるので精一杯や。2回目は自分で頑張ってもらわんとな。

溶暗。

第14エピソード 2つ違いなのね2

織絵は車にいる。すみれは車の周囲を歩き回りながら話す。

織絵 話が合うと思ったのにな。

すみれ それとこれとは別！

織絵 100万円くらい、ためてないの？。

すみれ 金があるかどうかも別。親父のために金を出したくない。大体何よ。親父が詩を作ってるなんて話、初めて聞いたのよ。母上は見せてもらってたの。

織絵 実はあたしも死んでから見たのよ。彼のノート。金庫の中にあった。誰にも見せていないんじゃないかな。

すみれ それは誰にも見せないまま、あの世に持って行きたかったんじゃないの。恥ずかしい。悪趣味よ。それを出版するなんて。しかも自費で。

織絵 でも人に見せるのも悪くないって。こういう男がいたって、ちょっとでも知ってもらえるじゃない。

すみれ 私は、知ってほしくないの。5回結婚して、10回以上仕事を代わって、娘に迷惑をかけ続けた父親の存在を、早く忘れたいの。母上には悪いけどさ。でも母上もあんな男のことは頭から追い払って、次に進んだ方がいいって。詩集を自費出版するなんて考え、変だし、後ろ向きだよ。

織絵 怒り出す) みんなが前向きじゃないといけないっての？ JPOPみたいに

すみれ 急に切れないでよ。言い過ぎたかも。でもやめた方がいいって。

織絵 そうかなあ。

すみれ 意味ないよ。

織絵 すみれちゃん、ひとつ聞いていい？

すみれ なに。

織絵 あなたが出てくる詩もあるんだけど、読んだことはないの？

すみれ あたしが。まさか。

織絵 じゃあ、娘に読ませなかったのか。

すみれ そうみたいね。

織絵 読んであげる。

すみれ は？

織絵 フートを開く 1989年5月の詩。あなたが生まれたのはいつ。

すみれ 私は7月生まれ。

織絵 読むよ。

すみれ 聞きたくないよ

織絵 聞きなさい。

すみれ 聞きたくない。

織絵 読み出す) のあのあのあのあ、と白い猫が鳴いている

すみれ 何よ、それ。

織絵 のあのあのあのあ、と黒い猫も鳴いている

すみれ やめて、それ、ひどくない？

織絵 ひどいな、と思っているかもしれない／君は光のない場所で／戦車が広場を  
進む／テレビの中で／男がその前に立っている／そんなことがあっていいわけが  
ない／そんな世の中がいいわけがない

すみれ 何よ、それ。

織絵 ひどいな、と思っているかもしれない／君は暗い場所で／生まれてきてもい  
いことがない／いたるところに埋められている地雷／飛行機がなにかをばらま  
いている／多くの人が爆弾で死んでいる／手足を吹き飛ばされて／そんなことは誤  
りだ／それが続いていいわけがない／水爆が君を狙っていないとも言えない

おれは謝らなければいけない／言い訳が出来ない／いい世界を用意できなかった  
／地雷の二つだって取り除いていない／憎しみあって／銃を撃ち合っている男たち  
は／現実にいる／それが20年後の君でない／そんなことは君に起こらない  
と／おれは約束できない／猫が鳴き交わすこの日常に／毒ガスや銃弾や不条理な  
殺意が／飛び込むことはないとおれは約束できない

だが生まれて来い／この世界には輝きがある／春の堤防には土筆が出る／夕日は  
鮮やかにラグビー場の向こうに沈む

生まれて来い／それだけの価値はあるから／星の美しさに言葉を失うことも／ラ  
グビーで優勝することも／誰かと抱き合って喜ぶことも／恋をした誰かとすれ違  
うとき／心に音楽が鳴り渡ることも／彼女のてのひらが君の手のひらを包むこと  
も／輝く一瞬は必ずある／本当の瞬間は必ずある／生まれて来い／君を歩かせる  
と約束する／歩く道は作る／水爆から守ると約束は出来ない／だが努力はする／  
だから生まれて来い／心と瞳を持って／小さな手を広げて／悲しみをかき分けて  
／大きな声をあげよ／ぼくの愛する世界へ／ぼくの愛する人から／きつと笑える  
から／この世界は／いっぱい笑えるから／生まれて来い／早く／生まれて来い

すみれ 間) 親父、なんで死んだんだっけ。

織絵 くも膜下出血

すみれ あたしを男の子やと思ってたのね。

織絵 当時はエコー検査とかなかったから。

すみれ 生きてたら感想言えたのに。

織絵 代わりに聞いてあげる。

すみれ 母上には言わない。

織絵 せっかく読んであげたのに。

すみれ 親父は死んだのね。

織絵 死んだよ。

すみれ 私は生きているのね。

織絵 すみれちゃんは生きている。

すみれ 母上も生きている。

織絵 あたしも、そうね。

すみれ 私、もうちょっと運転したいな。ドライブしない？急いで帰っても何もないでしょ。走ってから、帰ろう。

織絵 笑顔で、いいよ。

溶暗。

第15エピソード 発掘調査員 4

記者と谷山が車にいる。

記者 その話、面白いわね。そういう話、大好きよ。役所の不正の話って、大好き。正直、あなたの掘った弥生時代の遺跡の話自体より、それが勝手に壊されたって、この話の方が興味あるわ。

谷山 弥生時代じゃなくて、古墳時代だよ。

記者 弥生時代の古墳じゃないの。

谷山 弥生時代には古墳はなくて、古墳時代にしかないんだ。不安だな。正確に書いてくださいよ。古墳の中に石室があって、そこに絵が描かれてたんだ。それだけですごく珍しい。しかも女性を描いてて、とても美しかった。あれを削り取るなんて、信じられない。

記者 教育委員会の連中がブルドーザーで壊したのね。あなたの苦労の結晶を。分かっているって。歴史的に貴重なもので、必要な手続きをして保存すべきものだったのね。なんとかセンターを作ることがそれより優先されていいはずがない。

谷山 総合文化センター。

記者 谷山ちゃん、あたし再就職の世話はしないわよ。

谷山 え？

記者 内部告発をした後、役所に残れるとは限らないよね。すごくいづらくなるでしょ。その覚悟はあるの。

谷山 仕事をやめるのは覚悟してるよ。ほかのどこかで働く。

記者 分からないな。

谷山 何が。

記者 谷山ちゃん、そんな人じゃなかった。古墳を掘ることだけ地味にこつこつ続けて、上司の命令は絶対だったでしょ。むしろ気が弱い人だと思ってたもの。どうして、別人みたくなったのかな。

谷山 間) ティンパニーのせいかな。

記者 ティンパニー？なにそれ。

谷山 どこで生まれました？

記者 何よ、突然。埼玉県の小さな町よ。

谷山 病院でしたか。

記者 そりゃそうでしょう。お産は産婦人科の病院の独占事業よ。あいつら、ウハウハだよ。

谷山 おれ、バスで生まれたんです。

記者 バス。運転するあのバス。停留所でドン、って止まる。

谷山 母は出産を控えて、すごく精神的に不安定だったそうです。妊婦さんにはそういうこと、ときどきあるそうなんです。突然自殺したくなった。父は不在だった。母は1人で路線バスに乗って、海を目指した。投身自殺を考えていたようです。ところが、バスが高速道路で渋滞に巻き込まれた。そこで産気づいてしまったそうです。救急車は間に合わない。母子ともに危険な状態だった。乗り合わせていたのが、地元の高校のプラスバンド部と、退職した看護師さんたちのグループだった。元看護師さんたちは、けっこうなお年寄りたちだったようですが、バスの中で出産

させることを決めた。ティンパニーを二つ並べて分婉台にした。そこに母を寝かせて、おれを出産させた。生まれた時は、バスの乗客全員が拍手してくれたそうです。

記者 今なら、新聞記事になるような話ね。

谷山 そこで産気づかなかったら、母はそのまま投身自殺していたかもしれない。元看護師さんたちのグループが次のバスに乗ることにしていたら、そこにティンパニーが一つしかなかったら、おれは生きていなかったかもしれない。そういうことなんです。説明になってないかもしれないけど。でも内部告発しようと思ったときから、ティンパニーが耳の奥で鳴ってる。正しい事をしようとしているおれを励ましてくれるように思うんです。

記者 信じるよ。

谷山 ありがとう。

記者 私は信じるけどねえ。物的証拠がないと、誰も信じないわよ。写真もないんですよ。

谷山 撮ったけど、やつらが持って行ってしまった。完全に隠蔽するつもりだ。

記者 壁画の破片は。

谷山 1つ残らず、持っていかれてしまったんです。

記者 証拠がなくてはね。壁画の破片がいいんだけど、それを専門家に見てもらえば、古代に描かれたものかどうかもうか分かるしね。かばんに入れて、持ってきてくれたのかと思ったのよ。かばんがふくれているからさ。

谷山 え。

記者 なに入っているのよ。

谷山、かばんをあけ、驚いた様子で、赤い女性の衣が描かれた壁画片を取り出す。

記者 1個、残ってたのね。いいじゃない。専門家に見てもらいましょ。

谷山、振り返る。少女が上手に登場し、赤いハンカチを取り出して、谷山に向けて振る。

谷山 誰なんだ。君は誰なんだ。

少女、笑顔で、退場していく。

谷山 一体誰なんだ。

記者 どうしちゃったの。アフリカの幽霊とでもしゃべってんの。私よ。あなたの友達よ。

溶暗

第16エピソード みんなで車を動かす。

舞台上に「助けてください」の声。照明が入ると、織絵、すみれが車にいる。上手から、成田、羽田、伊丹が登場。

成田 どうしました。

織絵 ギアを入れ間違えて、車が砂浜に落ちてしまっただけです。

すみれ 環状道路に上がりたいんだけど、エンジンをかけてもタイヤが空回りして。

伊丹 この状態じゃダメだ。砂に完全にめりこんでいる。

羽田 レッカー車呼ぶか。

成田 このぐらいなら、道路に押し上げられるだろう。

伊丹 ようし、やるか。土着を脱ぐ

羽田 大丈夫か。おれたち、若くないんやで。

成田、伊丹 うるさい。

成田 やるぞ。

伊丹 とっとと手伝え。

5人、車を前に押すが、びくともしない。

伊丹 だめだ。びくともせんぞ。

羽田 最近、運動してへんからな。

成田 いかん。こんなことではいかん。

織絵 本当にすみません。

羽田 お友達同士のドライブですか。

織絵 親子なんです。

3人、驚く。

すみれ いろいろあって。

織絵 みなさんは。

成田 3人とも産婦人科の医者です。

伊丹 医学部で、一緒にヘビメタのバンドを。

羽田 最近、全員独身になりましたね。

織絵 私たちも、2人とも独身で。

伊丹 なんで？

織絵 まあ、いろいろあって。

成田 しかし、このままじゃあかなあ。助けを呼ぶか。

羽田 おおい、そっちの人助けてえな。

白田とホア、登場

白田 どうしました。

羽田 車が落ちたんで、道路に押しあげたいねんけど。

ホア 分かった。やりましょう 土着を脱ぐ)

白田 君はいいよ。おれがやるよ 土着を脱ぐ)

成田 男の人だけでいいですよ。

ホア 腕相撲で日本人男性に負けたことありません。

伊丹 よし、もう1度いこう。

全員で力をこめる。しかし動かない。

羽田 だめだねえ。

成田 もっと人を呼ぼう。

伊丹 おおい。

記者と谷山、登場

記者 何、事故？けが人出てるの？

羽田 いや無事です。車が落ちて、みんなで押し上げようとしています。

記者 なんだ。

谷山 手伝いましょう。

成田 ありがとう。

2人、作業に加わる。しかし動かない。

白田 もう少しだと思っけどな。

成田 ちょっと休憩しましょう。

全員、腰を下ろす。織絵、いったん退場し、コーヒーの缶を人数分、持って登場。全員に1本ずつ配る。

記者 車を落としたのはあなた？

すみれ 私です。ごめんなさい。

記者 いいけど、どうしてあんなところからバックで落ちるのよ。

すみれ ごめんなさい。免許を取ったばかりなの。

ホア また流れ星。

白田 きょうは多いね。

羽田 宇宙は永遠に膨張するんやろ。雑誌で読んだ。

伊丹 永遠なのか。永遠ってのは、科学的な言葉として、本当にあるのか。

ホア 星は永遠じゃないの。いつかは燃え尽きるの。中には、既に燃え尽きているものもあるのよ。光だけが、ここに送られてきているだけで、星そのものはもう存在しないの。

伊丹 じゃあ、おれたちのこの世界は永遠やないんやな。

羽田 あの岬のところに見えている、水平線のそばの青い星はなんだ。

伊丹 あれは星やない。さっき通ってきたトンネルや。

すみれ なんであんな色なの？

谷山 最近、このへんも悪いやつが増えてね。あそこで覚せい剤を打つ若者が多いってことで、その対策で青い照明にしたんです。

すみれ 青い光だと、覚せい剤を打ちたくなくなるの？

伊丹 青い光の中では、注射をしようにも、静脈が探せない。

谷山 よく分かりますね。中毒患者さんですか。

伊丹 医者やねん。

織絵 ホアに(ご夫婦なの。

ホア この人が結婚してくれないのよ。私はもてあそばれて、捨てられる運命なの。

白田 うそっぱちだ。

成田 バイクで海に落ちたやつがいるのかな。

記者 どういう意味？

成田 これを見るよ。

9人、波打ち際」に集まる。

成田 まっすぐ海に突っ込んでいる。

伊丹 タイヤが太すぎるやろ。こんなバイクはないで。

羽田 ここから始まっている。ここまではどうやってきたんだろう。道路から飛んだんかな。

谷山 これは道路からじゃなくて、海から来たんですね。

織絵 どういう意味？

谷山 これはバイクのタイヤの跡じゃなくて、海亀の産卵の跡ですよ。見たことないですか。

記者 そういえば。

谷山 まだ新しい。きのうの夜産卵したんですね。

成田 じゃここに卵が埋まってるのか？

谷山 そうです。

羽田 掘りだして、食べるか 全員、ブーイング。

ホア バカなこと言わないで。

谷山 海亀の産卵に使われる浜辺は、全国でも数少ないんです。大事にしなれば。

羽田 冗談だよ。足元に)ちゃんと、生まれてこいよ。地球温暖化やらなんやらで、海も大変だけど、ちゃんと生まれて来い。

織絵 小さな手を広げて。

すみれ 悲しみをかき分けて。

成田 なんですそれ。

織絵 なんでもない。

羽田 7カ月したら、もう1度、ここで車落としてください。

すみれ なんで？

成田 7カ月で今の精神状態から回復するらしいんです。平均値やけどね。

羽田 そうしたら、仲良くしましょう。携帯メールのアドレスを交換したりして。

織絵 今ではだめなの？

すみれ 母上。

記者 さあ、もう一度やりますか。

放浪男が静かに下手から自動車押しに加わる。10人はやがて歓声を上げる。

そして放浪男を置いて、全員三々五々散っていく。

放浪男 舞台に残り、車」にもたれて語り始める) 水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星

エンジンの音。9人がそれぞれ立ち去るのだ。

放浪男 惑星たちは動きを止めない。宇宙を回り続ける。ビールの広告看板の向こうに朝焼け。地球はきょうも太陽を半周した。おびただしい数の赤いテールランプが、環状道路に向かっていく。自分の行方を知らない無数の流れ星たちよ。あの光景が頭から消えない。(車)に乗り込む)。俺はここにいる。俺はここにはいない。俺は移動し続ける。おびただしい数の惑星たちのように。コンドルが飛ぶ空の下で。ハンドルをただ強く握って。どこに行けばいいんだろう。何をすればいいんだろう。答えは出ない。ただ移動し続けているだけだ。これが果てしない墜落だとすれば、いずれ落下すべき地面を俺は見るだろうか。踏み続けるアクセル。逃げ続ける逃げ水。どこまで行ってもアルゼンチンの道路。俺はどこに行くんだろう。行くべき場所にとどりつくだろうか。まだ、運転中だ。俺たちは一体、どこに行くんだろう。

溶暗。

子どもの産声が響く。

閉幕。